



プレスリリース 2009.07.28

「いざ、船内探険！ 吉宝丸（きっぼうまる）」展

◆開催概要

全国各地から約 25 組(7 月現在)の作家が参加し、広島で大規模に開催される現代アートプロジェクト。第 3 回目を迎える今回は、企画タイトルを「いざ、船内探険！ 吉宝丸（きっぼうまる）」と掲げ、まちの中に点在する『お宝（アート）』をトレジャーハンティングしていく地域散策型の展覧会により、会場となる吉島地区一帯の盛り上げをはかります。

シンポジウムやパフォーマンスをはじめ、作家と参加者との対話が広がるようなワークショップやトークイベントなどの関連プログラムを積極的に実施し、会期終盤の秋の大型5連休には、様々なスペシャルイベントも開催します。

1. 会期
2009年9月5日（土）～ 9月23日（水・祝）
月・火曜日休み(但し、祝日の21・22日は開場)
開場時間：11:00～17:00
2. 会場
広島市中区吉島地区各所
(広島市吉島福祉センター、キリン木材株式会社、ボートパーク広島、吉島稲生神社、など)
3. 主催
広島アートプロジェクト実行委員会
4. 共催
広島市立大学、財団法人広島市ひと・まちネットワーク 広島市吉島公民館
5. 助成
平成21年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業、
財団法人文化・芸術による福武地域振興財団、財団法人アサヒビール芸術文化財団、
財団法人朝日新聞文化財団
6. 特別協賛
広島バス株式会社、株式会社フレスタ
7. 協力
アサヒビール株式会社、エプソン販売株式会社、広島市中区社会福祉協議会、
広島市中区吉島学区社会福祉協議会、広島市中区吉島東学区社会福祉協議会、
広島市吉島福祉センター、広島ボートパーク株式会社、広島市立吉島小学校、
広島市立吉島東小学校、有限会社土岸新聞舗、株式会社中国新聞販売センター
8. 後援
広島市中区光南四・五丁目町内会
9. 公式ホームページ
www.hiroshima-ap.jpn.org
(又は、「広島アートプロジェクト」で検索して下さい。)
10. お問い合わせ
Tel 090-2008-7547, 082-830-1635 (広報担当：齋藤)
Fax 082-830-1635
E-mail HiroshimaArtProject@gmail.com

◆企画リーダーメッセージ ～ 吉宝丸（きっぽうまる）とは ～

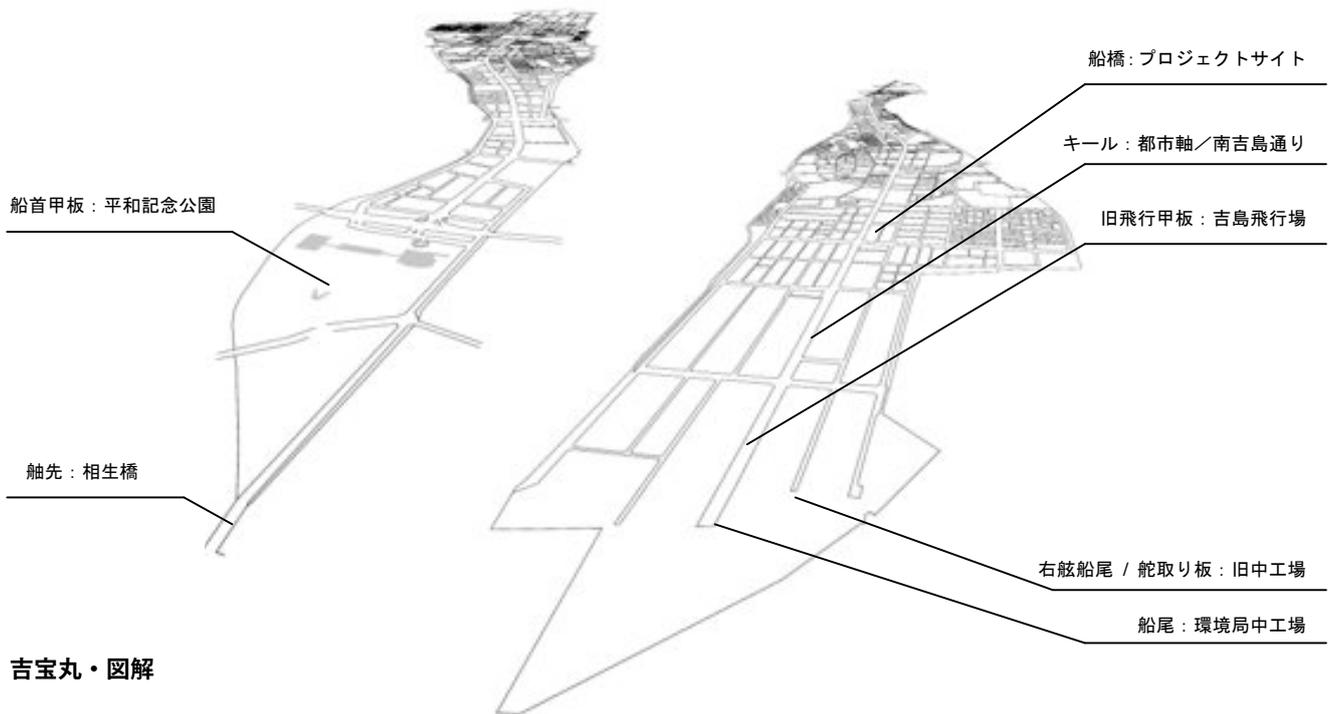
広島市は5つの島々が寄り添うようにして、一つの都市を形成しています。これまで広島アートプロジェクトは、その中でも最も小さな島の吉島で、地域を舞台とする展覧会を開催してきました。3回目となる今回は川と海で囲まれた吉島を、広島中心部に接岸した一隻の宝の船と見立て「吉宝丸」と名付けました。吉宝丸は、軸先に原子爆弾投下の目標となった相生橋を持ち、船首甲板には20世紀の平和問題を象徴する広島平和記念公園(丹下健三設計)、錨として両舷の平和大橋、西平和大橋(イサムノグチ制作)で広島に係留されています。船尾にはかつて飛行甲板の機能を持った吉島飛行場が備えられていましたが、現在は21世紀の環境問題を象徴するゴミ処理場である広島市環境局中工場(谷口吉生設計)を有しています。ゴミ処理場は右舷船尾の舵取り板として創造エネルギーを文化の駆動力にし、舵を切る役割を果たします。竜骨は船首と船尾を貫く都

市軸であり、広島アートプロジェクトの主要サイトは船橋に位置し、そこは操舵室があり、船長をはじめ航海士が操船することになります。

吉島はかつて「飛行甲板船」であり、平成19年に開催した〈旧中工場アートプロジェクト〉では文化を開花させる引き金となった「黒船」であり、平成20年に開催した〈旧中工場アートプロジェクト2〉では世界に日本文化を輸送した「遣隋使船」でした。そして今回、再びその躯体の価値を検討する『宝の船』という暗喩を用い、その船に点在する『お宝(アート)』をトレジャーハンティングしていく「いざ、船内探検! 吉宝丸」展を開催します。世界的な経済危機がもたらした不安定な時代に、今一度、既存の価値観を見つめ直し、心のゆたかさを考えるきっかけを提案します

船首：自然隆起、堆積、被爆

船尾：人工埋め立て都市



吉宝丸・図解

◆企画リーダー プロフィール

岩崎貴宏 (いわさきたかひろ)

1975年広島生まれ。05年エジンバラ・カレッジ・オブ・アート大学院修了。2007年度の旧中工場アートプロジェクト「ゴミがアートになる! 超高品質なホコリ」展を企画担当。主なグループ展に08年「日常の喜び」(水戸芸術館現代美術センター、茨城)、「六本木クロッシング2007 未来への脈動」(森美術館、東京)。また今年度9月開催の第10回リヨンビエンナーレ「日常のスペクタクル」にも参加。



◆展示サイト紹介



吉島稲生神社



デイ・リンク吉島店



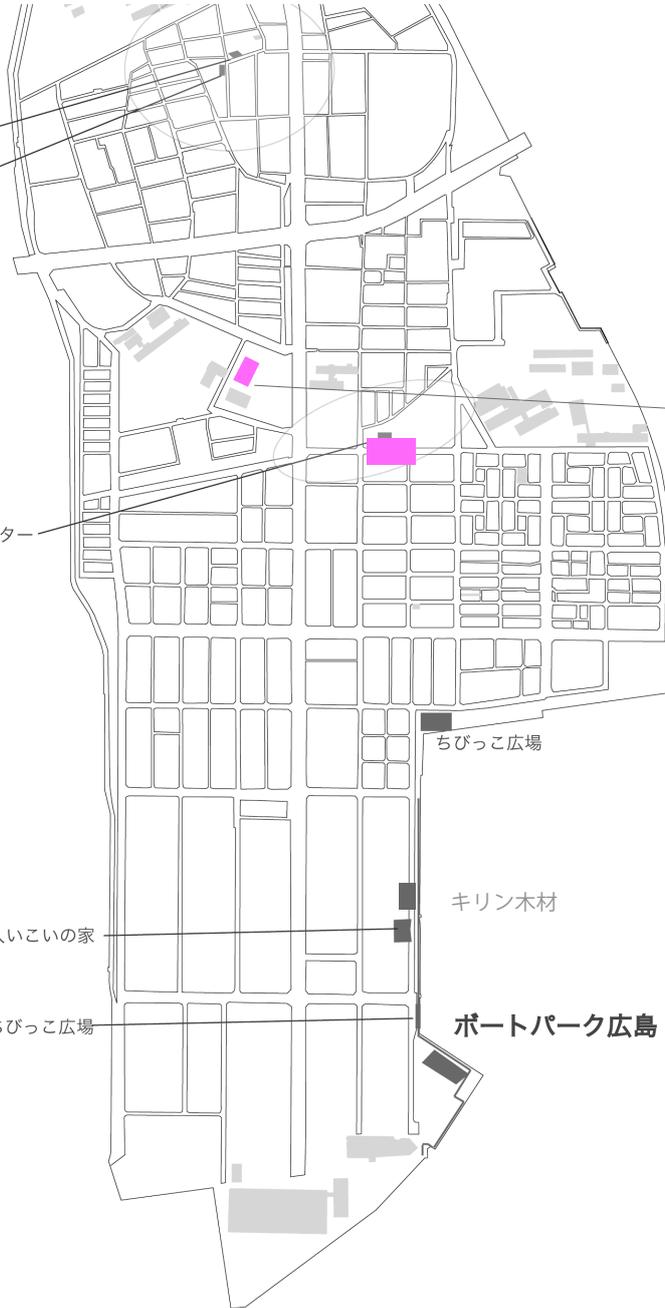
広島市吉島福祉センター



吉島老人いこいの家



南吉島町内会ちびっこ広場



吉島公民館



ちびっこ広場

麒麟木材

ポートパーク広島



◆総合インフォメーションセンター

場所：広島市吉島福祉センター（広島市中区吉島東二丁目 17-30）
開場時間：11：00—17：00
受付では、展示マップを配布し、各会場への移動方法や各種イベント情報をお知らせします。
また、カフェも同時オープンしますので、是非お立ち寄りください。

レンタサイクル：
会期中、無料で自転車を貸し出します。
受付時間：11：00—16：30 利用時間：11：00—17：00 まで





◆参加アーティスト／約30組 (2009年7月現在)

些細な出来事を主題にした作品や、日用品からゴミに至る素材を使いながらも、驚くような手法で制作された作品を多数展開します。

Antenna、平野薫、林加奈子、岩井優、岩崎貴宏、小林史子、金氏徹平、河野真悠子、Multiverse、水川千春、水口鉄人、丹羽陽太郎、佐野研二郎、下西進、鈴木勲、田中英行、田中偉一郎、谷山恭子、時里充、友枝望、辻原咲紀、山城大督、吉田慎司、ユミソン、吉村芳生、キッズアーティスト（吉島小学校、吉島東小学校）、他

◆今後のスケジュール

- 7/29、8/05 小学生夏休みワークショップ「1000年後のプラスチック動物あらわる！」(会場：吉島東小学校、吉島小学校)
8/01 ボランティア募集開始
8/07 地域説明会 (会場：広島市吉島公民館)
8/09 プレイベント・レクチャー「日本のアートプロジェクトの歴史」(会場：広島市吉島公民館)
9/05 一般公開+オープニングパーティー
9/19 ~ 9/23 秋の5連休スペシャルプログラム開催「トーク&シンポジウム」、「ざくざく！掘り出しフリーマーケット」、「敬老の日！お孫さんと一緒に巡るマイクロバスツアー」、「国民の休日！愛美の船内探検ツアー」、「秋分の日！ガッポリ☆収宝祭」
※ その他にも、アーティストトークやイベント情報を随時更新します。詳細は専用ウェブサイトにてご案内します。

◆トーク&シンポジウム

2009年9月19日(土) 13:00開始
会場：広島市吉島公民館 大集会室 定員：120名(当日先着順)

13:00 ~ 13:50	トーク：「企画リーダー岩崎貴宏が語る吉宝丸」 講師：岩崎貴宏 (広島アートプロジェクト企画リーダー)
---------------	---

「広島アートプロジェクト2009」の企画リーダーである岩崎貴宏が「吉宝丸」展を紹介します。「旧中工場アートプロジェクト2007」で好評を博した「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展を企画担当し、旧中工場を展示空間に一変させた岩崎は、今回、吉島を宝の船にたとえ、企画を吉島全域に展開しました。そのプロジェクトの全貌を語ります。

14:00 ~ 17:00	シンポジウム：「持続可能なアートを育てる」 パネリスト：細淵太麻紀 (BankART1929/PHスタジオ)、木ノ下智恵子 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師)、山出淳也 (NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事/アーティスト)、野田恒雄 (no.d-a 代表/TRAVELERS PROJECT 主宰)、柳幸典 (広島アートプロジェクトディレクター)、モデレーター：加治屋健司 (広島市立大学芸術学部准教授)
---------------	---

広島における持続可能なアートによる地域振興の可能性を考えるために、まちの活性化に取り組む専門家を外部から迎えてシンポジウムを行います。日本各地で継続的に行われている芸術活動の事例を検討し、今後の広島の都市形成を担う広島の市民や学生と問題を共有することで、広島の文化芸術活動を一層持続的なものにするための有効的な手段について考察したいと考えています。本シンポジウムは、平成21年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業の一つとして開催されます。

◆シンポジウム パネリスト・モデレーター紹介

細淵太麻紀 (ほそぶちたまき)

1971年埼玉県川越市生まれ。横浜在住。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業後、1996年よりアーティスト・建築家などからなるチームPHスタジオのメンバーとして様々なプロジェクトに参加。広島島のダムに沈む町を舞台にした『船をつくる話』は長年深く関わった代表作。2004年、横浜の歴史的建造物などを芸術文化に実験活用するプロジェクト「BankART1929」の立ち上げに関わり、以降、企画制作・運営全般に携わる。編著に『PHスタジオ 1984-2002』『BankART Life』『美食同源』『アートイニシアティブ リレーする構造』など。



木ノ下智恵子 (きのしたちえこ)

1971年大分県生まれ、尼崎市在住。神戸芸術工科大学大学院修了。1996年～2005年神戸アートビレッジセンター美術プロデューサー（06年より非常勤）。06年より現職。他に芸術系大学非常勤講師、雑誌等への執筆など。専門はアートプロデュース、事業企画制作など。主な事業・活動に「島袋道浩展」、「新開地アートストリート 2002-2005」、「中之島コミュニケーションカフェ」（アートエリアB1）。「湊町アンダーグラウンドプロジェクト」、「NAMURA ART MEETING '04-'34」、「水都大阪 2009「ヤノベケンジプロジェクト」」などがある。



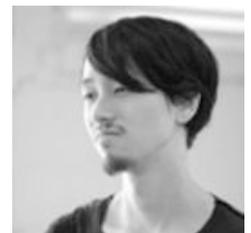
山出淳也 (やまいでじゅんや)

NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事、アーティスト。1970年大分生まれ。PS1 インターナショナルスタジオプログラム参加（2000-01）。文化庁在外研修員としてパリに滞在（2002-04）。主な展覧会として「台北ビエンナーレ」台北市立美術館（2000-01）、「GIFT OF HOPE」東京都現代美術館（2000-01）、「Exposition collective」Palais de Tokyo、パリ（2002）など多数。帰国後、地域や多様な団体との連携による国際展開を目指して、2005年に BEPPU PROJECT を立ち上げ現在にいたる。平成20年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞（芸術振興部門）。



野田恒雄 (のだつねお)

no.d+a (number of design and architecture) 代表、TRAVELERS PROJECT 主宰。1981年京都生まれ。本籍滋賀、福岡市在住。1級建築士。東京都立大学工学部建築学科（小泉雅生研究室）卒業。東京都学生卒計コンクール 2003 芦原太郎賞。(株)青木茂建築工房勤務を経て、2005年 no.d+a 設立。同年 TRAVELERS PROJECT 立ち上げ。建物再生デザイン、運営、店舗や展覧会のディレクション、などを行う。



柳幸典 (やなぎゆきのり)

1959年福岡生まれ。美術家、広島市立大学芸術学部准教授。米国イェール大学大学院を修了し、国内外で多くの国際展に招待される。1993年の第45回ベニスビエンナーレ、アペルト部門にて受賞する。近年、岡山の産業遺跡の島をアートにより再生する「犬島アートプロジェクト」に取り組み、2008年第一期「精錬所」が完成する。現在、2010年「瀬戸内国際芸術祭」に向けて「犬島アートプロジェクト」第二期を準備中。2007年より、広島湾岸にある吉島を舞台とした広島アートプロジェクトのディレクターを担う。



加治屋健司 (かじやけんじ)

広島市立大学芸術学部准教授、広島アートプロジェクト実行委員会執行委員、日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ代表。1971年千葉県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程、ニューヨーク大学大学院美術研究所博士課程、スミソニアンアメリカ美術館研究員を経て現職。近現代美術史を研究。共著に『旧中工場アートプロジェクト』（2007）、『広島アートプロジェクト 2008』（2009）、『アートイニシアティブ リレーする構造』（2009）、『マーク・ロスコ』（2009）、『Count 10 Before You Say Asia』（2009）など。広島在住。



◆参加アーティスト資料 (2009.07.28 現在)

資料はプランイメージ及び過去の作品です。必ずしも同じ作品が出品されるわけではありません。



平野 薫 (ひらの かおる) 《untitled -slip-》 2007 年

1975 年長崎生まれ。広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了。主な個展、東京日仏学院 2006、資生堂ギャラリー 東京 2007、SCAI X SCAI 東京 2007、KUMUKUMU ニューヨーク 2009。主なグループ展、「糸と布のかたち」横浜市民ギャラリー 2006、「OFF SITE 2007」横浜美術館 2008、ISCP ニューヨーク 2008、「越後妻有トリエンナーレ 2009」。第1回 shiseido art egg 賞 受賞。2008 ACC の助成により ニューヨークに半年滞在。



小林 史子 (こばやし ふみこ) 《The Island Over There》 2009 年

1977 年東京生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程壁画専攻修了。主な個展に「Fumiko Kobayashi」(GERTRUDE CONTEMPORARY ART SPACES,メルボルン,2008)。主なグループ展に「Crawford Open 2007 -The Sleep of Reason-」(Crawford Art Gallery Cork,2007)、「Re-Act 新・公募展」(広島市現代美術館,2007)。「距離・カオス&オーダー・帰れなくなるための旅・巣」をテーマに、東京を拠点に国内外で活動中。



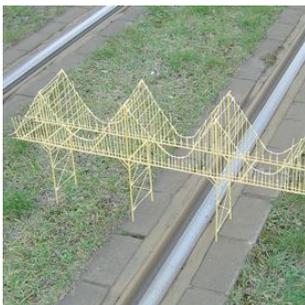
河野 真悠子 (こうの まゆこ) 《ハイ・エンデュランス》 2009 年

1981 年島根生まれ、広島育ち。アメリカ、Penn State University 修士課程在籍中。「Big Big Bangs/ Small Small Bucks」(Dean Jensen Gallery、ミルウォーキー、2009)、「Joseph Bolstad and Mayuko Kono」(Zuishoji Art Projects、東京、2008)、「Aqua Art Miami」(マイアミ、2007)、「In:Site North Avenue Gateway」(ミルウォーキー、2006) など様々な展覧会に参加。



Multiverse (マルチヴァース) 《未定》 2009 年

岩崎貴宏と友枝望を主とするアート・ユニット。共に広島市立大学出身。岩崎と友枝はこれまで個別に作家活動を行ってきた反面、2007 年に岩崎が企画担当した「超高品質なホコリ」展、2008 年に友枝が企画した「イルハグランデー愛ー」展にそれぞれ作品の出品提供、また、企画のサポートという形で、協同作業を行い広島アートプロジェクトを盛り上げてきた。今回は、「吉宝丸」展の吉宝丸モデルを製作するためにユニットを結成。マルチバースとは、単一の宇宙「ユニバース」ではなく、多次元、仮想、入れ子に展開する宇宙モデルをさす。



丹羽 陽太郎 (にわ ようたろう) 《無題》 2006 年

1973 年兵庫県淡路島生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了。主な個展に「道筋を辿る」(Kunstverein St.Pauli, Hamburg, 2007)、「αM プロジェクト- 現われの空間- vol.1」(Art Space Kimura、東京、2008)。主なグループ展に「Excellent」(Volkswagen Bank Braunschweig, 2006)、「Beyond the line」(Herzog Anton Ulrich Museum / HBK-Braunschweig, 2007)、「Follow the line」(Galerie Elly Brose Eiermann, Berlin, 2008)。「捉えようとしてつじつまが合わない世界の様相は実はそのまま作るべきちよこくである。知覚体験と認識作業がせめぎ合う魅力ある空間で、空間をつくることは未来を呼吸することである。」(2009 年、アーティストノートより)



佐野 研二郎 (さの けんじろう) 《CGB Chikyū gomibukuro / 地球ゴミ袋》

1972年東京生まれ。多摩美術大学卒業。博報堂を経てMR_DESIGN設立。主な仕事にLISMO!、ニャンまげ、Tブー!S、資生堂ザ・コラーゲン、ミツカンとろっ豆、宇多田ヒカル、井上陽水など、キャラクターデザイン、広告デザイン、CDジャケットなどがある。フランフラン pigmug、バスルームに貼るポスターBATHART、nico productsの商品開発なども手がける。
www.mr-design.jp



鈴木 勲 (すずき いさお) 《廃プラスチック油化燃料によるモペットバイク日本縦断》 2008年

1969年東京生まれ。多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。東京芸術大学美術学部先端芸術表現科元助手。主な個展に「Forward」(OMONMA Tent、茨城、2009)。主なグループ展に「水と土の芸術祭」(新潟市、2009)、BankART Life II ルーフトップパラダイス (BankART Studio NYK、横浜、2008)。2007年 eco japan cup 2007 カルチャー部門エコアート・グランプリ。自然エネルギーを動力に利用した旅作品を制作。埼玉在住。http://www.isao-suzuki.com



田中 偉一郎 (たなか いいちろう) 《ストリート・デストロイヤー(物件003)》 2004年

《ストリート・デストロイヤー(物件003)》 2004年

'74年生まれ、うお座、B型、美術作家。東京在住。2000年以降、数々の微妙な展覧会を開催。2007年には、「六本木クロッシング~未来への脈動~」にてオーディエンス賞を獲得。また美術手帖の昨年終了した連載「やっつけメイキング」、ココヨ提供の変な工作本「スーパーふるくブック」ほか、パブリックでも何だか分からない何かを乱れ打ちしている。



時里 充 (ときさと みつる) 《音遊びの会》 2009年

1990年兵庫県生まれ。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) 在学中。主なグループ展に「HOME PARTY展」(Songwon Art Center, ソウル, 2009)。現在は、場所の特徴を反映しつつ、日々変化させることでみえてくる可能性に興味を持ち制作している。総勢30人にもなる大バンド「音遊びの会」のメンバー。岐阜県大垣市在住。http://tokisatomitsu.ru/



吉村 芳生 (よしむら よしお) 《2008年6月15日》 2008年

1950年山口生まれ。1971年山口芸術短期大学生生活芸術科卒業。1979年創形美術学校版画研究科卒業。主な個展に「830日の自画像」(下関市立美術館、1991年)、「色鉛筆で描く花の世界」(高知県香美市美術館、2007年)。主なグループ展に「六本木クロッシング 2007 未来への脈動」展(森美術館、2007年)。「新聞と自画像」は現実の日々。「色鉛筆で描く花の世界」は未知なる浄土。「この世」と「あの世」を描き続ける。山口市在住。